

情報モラル学習 - 仮想インターネット教材の活用を通して -

深谷小学校

1 単元名 「ようこそ、インターネット・ワールド」 第6学年（総合的な学習の時間）

2 単元の目標

社会生活の中で情報が果たしている役割や及ぼしている影響について理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、情報社会に参加する者としての道徳的な態度を養う。

有害情報の危険性を知り、その正しい対処の仕方がわかる。

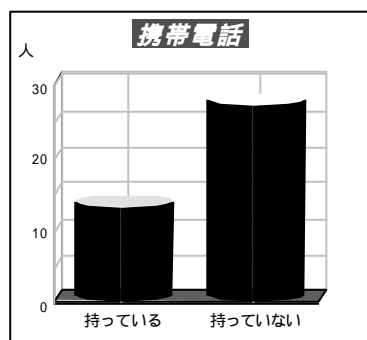
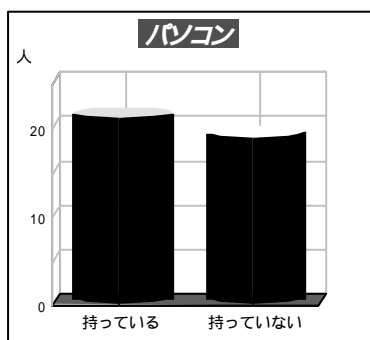
お互いの人権を守る上で、情報モラルが大切であることがわかる。



3 児童の実態

インターネットの普及に伴い、各家庭や全国の小・中学校にも導入され、児童にとっては大変身近な情報の一つとして利用されるようになってきている。インターネット（web ページや E メール）上には膨大な情報があり、多くの有益な情報を生活や学習に生かすことができるが、一方、驚くほどの有害情報もあふれており、簡単に有害情報にアクセスできるという問題点も含まれている。

特に今日では、いわゆる「出会い系」のサイトやメールをきっかけとした犯罪や事件等も多く報道され、いつそのような事件に巻き込まれてもおかしくない状況にあると言える。実際にその窓口となるパソコンや携帯電話の普及について、その実態を調べてみると、本学級（40人）では次のような結果が得られた。



携帯電話が小学生にまで普及していることに驚かされる。

- ・パソコンを持つ家庭が21件ありインターネットができる環境にある家庭は14件ある。
- ・多くの家庭が一家に一台以上携帯電話を持ち、自由に使える携帯電話を持つ児童が13名もいる。
- ・実際に、いわゆる「迷惑メール」を受信したことのある児童は10名にも及ぶ。

主な内容

4 自作教材作成の意図（ホームページ作成ソフトの利用）

学校教育でも頻繁に使われるようになったインターネット上には有害な web ページもある。擬似有害 web ページ的を目的に応じて作成し、児童に体験させながら、その危険性に気づかせ、対処の方法が学べるようにする。

- ・ウソの情報
- ・チェーンメール
- ・成人向け
- ・個人情報アンケート
- ・掲示板
- ・マイホームページ作成



仮想有害 web ページ

5 授業の様子

児童は、初めは面白がって見ていたようだが、ページごとにその危険性を話し合い、教師の方で実際に起きた事件等を紹介することで、自分のこととして真剣に受け止められるようになっていった。



6 研究の成果（児童の感想）

- ・面白そうに見えるホームページでも、落とし穴があるので危険だと思いました。もし、そのようなホームページを開いたとしても、入らないようにします。
- ・家のコンピュータも、メールを開けたらウィルスが入ってしまって、今もウィルスが回っています。この勉強を通して、インターネットの危険なところがわかったし、気をつけようと思いました。
- ・「あなたにはのろいがかかっている」とかを信じて、メールを他人に回すことは迷惑をかけることになる。兄もよくメールが回ってきて、迷惑がっていた。
- ・プレゼント実施中とか言って、それがほしいばかりに、住所とか名前などアンケートに答えると悪用されることがあるとわかった。
- ・何か調べようとして、ホームページに書かれていることを何でも信じるのはよくない。うそのことも書かれていることがあるので、正しいかどうか判断しようと思う。
- ・私は今度、自分のホームページを作ろうと思っていました。今日この勉強をしていなかったら、たぶん自分の名前や家の住所などくわしく書いていたと思います。
- ・私は携帯電話を持っているけれど、よく変ないたずらのメールが送られてきます。そんなメールが来ても返事を送らないようにして消去します。

7 今後の課題

このような授業を行うことで、有害情報がインターネット上にあることを知り、かえって興味本位に見てしまうことも考えられるので十分に配慮する必要がある。

今後、益々情報化社会が複雑になり、それに関わる犯罪や事件等も深刻な問題になるに違いない。そんな社会の中では、「情報モラル」に関する指導の充実、改善を図るとともに、それらの情報を扱うのは人間であり、情報機器の向こうには人間がいるということを意識させ、それが見えない存在であるからこそ、より慎重に気持ちを察したり、言葉を選べるような配慮が必要であることに気づかせていきたい。